

スペインの風 奏太君のコンサート

志村 良知

スペインの風、と題するギター・コンサートを聴いた。

会場は鶴見のサルビアホール。ギターに最適という100席ほどの規模で、マイク無しの子のクラシックギターの音を演奏者の表情や指の動きと共に楽しむことができる。

出演はギター仲間で追っかけていた中林奏太君。彼の演奏を初めて聴いたのは、彼が高校生になり立ての頃で、横浜市内のギター教室の発表会だった。凄い天才がいる、と友人に引っ張って行かれ、その場で「押し」に決めた。

3歳で横浜の高名なギター教室に入り、才能を見出される。しかし、先生とご両親は「天才小学生」として世に出すことはせず、将来の「コンサートギタリスト中林奏太」として大成させる道を選んだ。子供のころから度々スペインに渡り、本場のレッスンを受け、ギタリストたちと交流してきたという。

2018年、高校卒業と同時に先生の母校でもあるマドリッド王立音楽院に留学。壮行コンサートでは200人のホールが壮途を祝福するファンでパンク、急遽ロビーに大型モニターと椅子を並べてのパブリックビューイング席が作られる騒ぎだった。

留学3年目の2021年からヨーロッパのコンクールに出場、優勝3回、2位2回。2022年8月には最難関のフランシスコ・タルレガ国際ギターコンクールで8人のセミファイナリスト入り。今回はそれらの成果報告と、8月の音楽院卒業を控えての一時帰国演奏会だった。

スペインの風、と銘打ったように全てスペイン人の、それもタルレガ以外は現役の作曲家の作品。たった一台のギターからこんなにも多彩な音が出せるのか、という超絶技巧の曲が生で響く。その中でタルレガ・コンクールの課題曲だった『アルハンブラの思い出』が今まで聴いたことのないような繊細な音色で奏でられる。

壮行コンサートではお辞儀で目が泳いでしまっていた奏太君、今回は堂々たる様式美を持ったプロのステージ。「世界の奏太」に羽ばたくには向こう5年が勝負か、頑張れ我らが奏太。